

P4-2 横浜市立大学附属病院におけるがん登録データの分析について

公立大学法人横浜市立大学附属病院
医事課情報管理・分析担当
松澤 祐子 池本 淑枝

【施設紹介】



- 神奈川県横浜市金沢区
- 平成3年医学部附属病院として開院
- 特定機能病院
- 地域がん診療連携拠点病院
- 病床数 671床
- 外来患者数 1,800人/日
- 入院患者数 531人/日
- 平均在院日数 11.5日

【目的】

- 他施設と比較した自施設のがん診療の状況を把握
- 自施設の特徴を地域医療にどのように貢献できるか

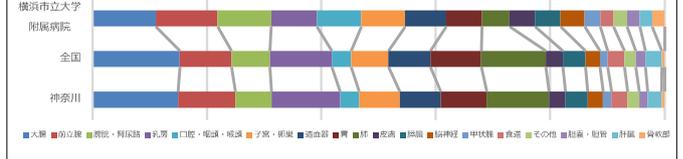
【方法】

- 院内がん登録全国集計閲覧システム(0年集計)からデータ抽出
- 当院の経年推移・部位別登録数
- 当院と同県内のがん診療連携拠点病院と比較
- 当院と全国・神奈川県・姉妹施設と比較
- COVID-19流行におけるがん診療への影響調査

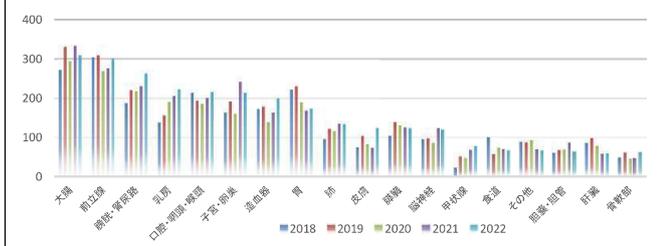
当院のがん登録数の経年推移（2018年～2022年）①



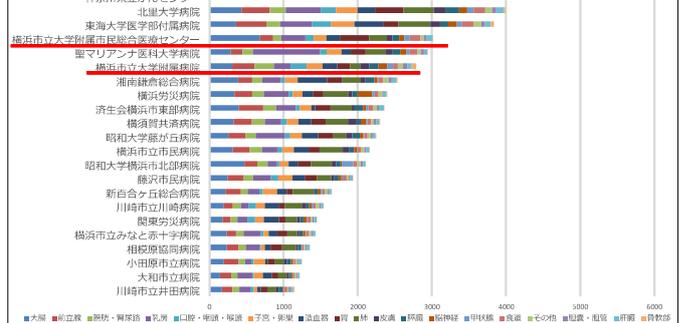
2022年部位別登録割合（全国との比較）④



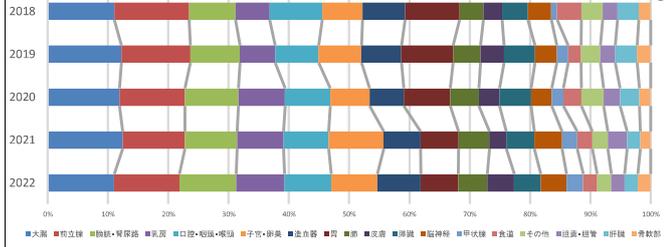
当院の部位別登録数の推移（実数）②



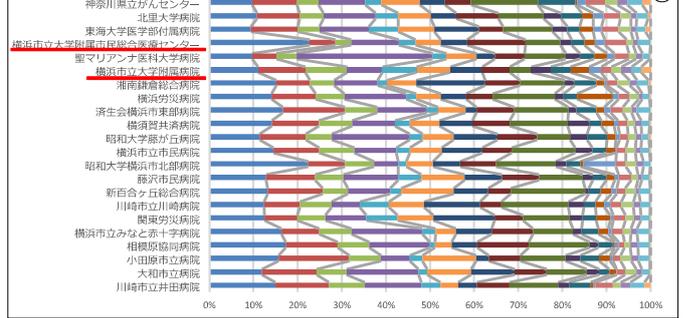
2022年神奈川県 部位別登録数（実数）⑤



当院の部位別登録数の推移（割合）③



2022年神奈川県 部位別登録数（割合）⑥



【考察】

- がん診療連携拠点病院として、5大がんを中心にさまざまながんに対して専門的治療を提供していることが読み取れた
- 横浜市内唯一の特定機能病院として、治療実績が評価されていることが考えられる
- コロナ禍において紹介先の選択肢が限られたことが、当院受診につながったと考えられ、COVID-19流行の影響は少なかった
- 姉妹施設と役割分担ができていたことが確認できた

【結語】

- 受診増加は、当院のがん診療の実績が評価されていると考える
- 今後もがん登録データを活用して、地域に求められる病院として貢献できるようにプレゼンスを高めていきたい